

# 『浮世風呂』における平仮名字体の使用傾向

川 端 詩 織

現代では原則、一つの平仮名に決まった一字が当てられている。一方で近世以前は、複数の字体で表記される平仮名が存在していた。中世以降は平仮名字体の整理が進んでいたが、依然として複数の字体が存在し、そこには使い分けがあったことが先行研究で指摘されている。本稿では先行研究を踏まえ、近世後期に成立した滑稽本『浮世風呂』を分析対象とし、文章種別の観点から平仮名字体の使用傾向を考察する。

## 一 平仮名字体の定義と先行研究

「字体」という語は『日本国語大辞典』（第二版）で「文字の点画による構成のあり方。基準となる正体やそれに対する異体、俗体、略体の別など。また、楷書体・行書体・草書体などの文字の書き方や印刷の活字の様式など。書体。」と説明されている。つまり「字体」という語には具体的に、(一)正体や異体等の字の形の意、(二)楷書体や行書体等の書体の意がある。ただし仮名研究において「字体」と言う場合、(一)の意味の中でも特に、字母やくずし具合によって区別される仮名の字の形という意味

で使われることがある。後述する平仮名字体の先行研究においても、字母およびくずし具合による字体の区別がなされている。本稿も先行研究にならない、平仮名字体は字母およびくずしの具合によって分類する。字母の異なるものは別字体とし、さらに同じ字母でもくずしの異なるものを別の字体として定義する場合がある。その具体的な分類は後に述べる。

近世以前に複数の平仮名字体が用いられてきたことについて、多くの研究がなされている。平仮名の用字に関する研究はおおむね(一)語中の位置・特定の語に使われる平仮名字体の研究、(二)資料の性格や作品ジャンルごとの平仮名字体の研究<sup>①</sup>、(三)文体と平仮名字体との関係の研究の三項に分類できる。

(三)の文体と平仮名字体との関係の研究としては久保田篤氏の研究がある。久保田氏は文体の違いによって使用される平仮名字体が異なる場合があると指摘している。調査対象は恋川春町の黄表紙『無益委託』の序文、詞書、本文である。漢文調の序文では、本文で頻用しない特殊な字体が使われる割合が高いことから、文章の性格によって字体を変え、装飾的に用いてい

る意識が見られると述べている。<sup>(3)</sup>

久保田氏は他の近世版本の仮名字体についても研究を行い、『浮世風呂』前編巻之上のうち本文を対象とした研究もしている。『浮世風呂』研究では(一)に類する語中の位置による字体の使い方を指摘するほか、方言などの特徴のある言葉に使用比率の小さい字体が用いられていることを指摘している。<sup>(5)</sup>

本稿では(三)文体と平仮名字体との関係の研究を参考に、『浮世風呂』前編の文章種別による平仮名字体の使い分けについて述べる。久保田氏が調査した『浮世風呂』前編巻之上の本文に加え、前編巻之下および序文、割書き等の他の文章種別も調査対象とする。この調査の結果、『浮世風呂』本文以外の序文、割書きなどの文章種別ごとに平仮名字体の使われ方に異なる傾向が見られることが分かった。

## 二 調査対象『浮世風呂』

『浮世風呂』は銭湯を舞台とした作品である。主に銭湯の番頭や訪れた客の会話によつて話が進められる。また会話文の他に二行書きの割書きがあり、そこで人物や状況の描写がなされている。

調査に用いる本は、国文学研究資料館蔵本の写真データと、新典社から出ている野村貴次氏蔵本の影印本で、いずれも文化六年刊の初版本である。国文学研究資料館蔵本は、新日本古典

籍総合データベースで公開されている画像を用いる。新典社の影印本は、新典社が配布した非売品である。この二点のうち国文学研究資料館蔵本を主に使用した。ただし摩滅や虫損により判読できなかった部分は新典社の影印本で補った。

丁数は墨付きの初めから一丁とし、調査範囲でない丁も数えている。なお国文学研究資料館蔵本は、巻之上の二二丁の直後に来るはずの丁が二五丁目に来ている。綴じ違いによるものと考えられる。平仮名字体の調査に影響はないが、念のため指摘しておく。

調査の対象とする範囲は、前編の男湯之巻上下二冊のうち巻之上「譚話浮世風呂前編巻之上／江戸 式亭三馬戯編」と書かれている次の行からである。

『浮世風呂』前編の文章種別は次の四項に分類できる。この分類によつて分析を行う。

- ・序文：上巻六丁表〜八丁裏。文語調で、俚言や唄、論語等を引くなどし、銭湯の情景を表現する導入部分。
- ・注：上巻八丁裏に存在。昔の銭湯の看板について説明する部分。
- ・本文：上巻九丁表〜下巻三二丁表に存在。人物の発話を中心。木魚や鈴などの物の音や、犬や鳥といった動物の鳴き声も書かれる。
- ・割書き：上巻九丁表〜下巻三二丁裏に存在。登場人物や状況の説明を行う部分で、本文の間に挿入される。

### 三 平仮名字体の概観

『浮世風呂』前編で見られた平仮名字体の種類は【表1】に示すように分類できる。同じ字母のものは、字母となる漢字の後に登場順に番号を付して区別する。同じ字母で字体を区別する仮名は、以下の六種である。

音節タの字母「多」の字体は二種に分類される。「多2」は漢字の形に近く、仮名としては複雑な形である。一方の「多1」はくずしが強く、簡略化された字体である。

音節ツの字母「川」の字体は二種に分類される。「川1」は漢字の「川」の形に近く、三画がはっきりと書かれている。一方の「川2」は一画のように滑らかに続けて書かれ、現行の仮名「つ」の形に近い。

音節テの字母「天」の字体は二種に分類される。「天2」は漢字の形に近い。一方の「天1」はくずしが強く、現行の仮名「て」の形に近い。

音節ネの字母「衿」の字体は三種に分類される。「衿1」は傍の下部が「小」字のように書かれている。一方の「衿2」はその部分が左から右への運筆となっている。「衿3」では全体が省略され、現行の仮名「ね」の形に近い。

音節ノの字母「乃」の字体は二種に分類される。「乃2」は漢字の形と同じである。一方の「乃1」は現行の仮名「の」の形に

近い。

音節モの字母「毛」の字体は三種に分類される。「毛1」はくずしが弱く漢字の形に近い。一方の「毛2」はくずしが進み現行の仮名「も」の形に近い。「毛3」は他の字体と異なり、縦画から左上に筆が運ばれている。

『浮世風呂』前編における平仮名字体の用例数は【表1】に示す。本稿における字体の分類では、一つの平仮名につき最大で四種類の字体が存在する。

次のA～Dは字体の数によって平仮名を分類したものである。各項目内で平仮名を五十音順に並べ、平仮名字体が複数ある場合はその字体を用例数が多い順に示す。

A、字体が一種：二〇

イ[以] ウ[宇] エ[衣] オ[於] ク[久] サ[左]  
ソ[曾] チ[知] ヌ[奴] フ[不] ム[武] メ[女]  
ヤ[也] ユ[由] ヨ[与] ラ[良] ロ[呂] ㇿ[為]  
エ[恵] ン[无]

B、字体が二種：一九

ア[安] ア[阿] カ[可] カ[加] キ[幾] キ[起] ケ[計] ケ[介]  
コ[己] コ[古] シ[之] シ[志] セ[世] セ[勢] テ[天1] テ[天2]  
ト[止] ト[登] ナ[奈] ナ[那] ヒ[比] ヒ[飛] ヘ[部] ヘ[遍]  
ホ[本] ホ[保] マ[末] マ[満] ミ[三] ミ[美] リ[利] リ[里]  
ル[留] ル[類] ワ[王] ワ[和] ヲ[遠] ヲ[越]

C、字体が三種：六

ス「春」「須」「寸」　タ「多1」「太」「多2」

ツ「川1」「徒」「川2」　ノ「乃1」「乃2」「能」

モ「毛2」「毛3」「毛1」　レ「礼」「連」「禮」

D、字体が四種：三

ニ「尔」「仁」「丹」「二」　ネ「祢2」「祢3」「祢1」「年」

ハ「八」「者」「盤」「波」

全四八の平仮名のうち、Aの二〇の仮名は字体が一種に固定されている。これは平仮名字体の整理が進んでいたことを反映しているとみられる。

そのような傾向にあっても、二字体以上が用いられる平仮名はBとDの二八と半数以上ある。このBとDの仮名について、その字体の文章種別の使われ様に注目し考察する。

#### 四 文章種別と平仮名字体の関係

複数字体がある仮名に限り文章種別に用例数を示したものが【表2】である。この表に基づき、文章種別との関係が見られた字体について五十音順に言及する。

・ア：「安」【阿】

【阿】の二例はいずれも序文の用例である。

・カ：「可」【加】

【加】について全体の使用率（約八％）に比べ、序文における使用率（約三五％）が高い。

・ケ：「計」【介】

【介】について全体の使用率（約一三％）に比べ、序文における使用率（約三三％）が高い。

・ス：「春」「須」【寸】

【須】の六例は全て序文の用例である。

・セ：「世」【勢】

【勢】の二例はいずれも序文の用例である。

・タ：「多1」「太」【多2】

【太】について全体の使用率（約八％）に比べ、序文における使用率（二〇％）が高い。

・ツ：「川1」【徒】【川2】

【川2】について全体の使用率（約九％）に比べ、割書きにおける使用率（約三五％）が高い。この【川2】は、【徒】【川1】に比べて簡略な形の字体である。

【徒】は注における音節ツの仮名として唯一用いられている字体である。序文においても音節ツの仮名八例中一例（約一三％）が【徒】で、全体における使用率（約九％）を上回る。

・テ：「天1」【天2】

【天2】について全体の使用率（約三％）に比べ、序文における使用率（約七二％）が高い。用例数で見ると【天2】の二八例中二〇例が序文に用いられている。また注における音節テの仮名

として唯一用いられている字体でもある。

・ト…〔止〕〔登〕

〔登〕の一例は序文の用例である。

・ナ…〔奈〕〔那〕

〔那〕の三例中二例が序文の用例である。

・ニ…〔尔〕〔仁〕〔丹〕〔二〕

〔丹〕の九例のうち序文が八例、注が一例である。

・ネ…〔祢2〕〔祢3〕〔祢1〕〔年〕

〔年〕の二例はいずれも割書きの例である。〔祢3〕について全体での使用率（約八％）に比べ、割書きでの使用率（約四四％）が高い。これら〔年〕〔祢3〕は、〔祢2〕〔祢1〕に比べて簡略な形の字体である。

・ノ…〔乃1〕〔乃2〕〔能〕

〔乃2〕は一一例中一〇例、〔能〕は四例中三例が、序文に用いられている。

・ハ…〔八〕〔者〕〔盤〕〔波〕

〔盤〕は一〇例全てが序文の用例である。

・モ…〔毛2〕〔毛3〕〔毛1〕

〔毛3〕について全体における使用率（約二六％）に比べ、割書きでの使用率（約六三％）が高い。この〔毛3〕は、〔毛2〕〔毛1〕に比べて簡略な形の字体である。

〔毛1〕は全一三例のうち八例が序文に、一例が注において用いられている。

・リ…〔利〕〔里〕

〔利〕について全体における使用率（約八二％）に比べ、割書きでの使用率（約九五％）が高い。この〔利〕は、〔里〕に比べて簡略な形の字体である。

・ル…〔留〕〔類〕

〔類〕の五例は全て序文の例である。

・レ…〔礼〕〔連〕〔禮〕

〔禮〕の一例は序文の用例である。また〔連〕の序文での使用率（約二七％）は、全体での使用率（約二三％）に比べて高い。

〔礼〕について全体における使用率（約八六％）に比べ、割書きでの使用率（約九五％）が高い。この〔礼〕は、〔連〕〔禮〕に比べて簡略な形の字体である。

・ヲ…〔遠〕〔越〕

〔越〕について全体における使用率（約八％）に比べ、序文での使用率（約四九％）が高い。

以上から、文章種別により見られた平仮名字体の使用傾向は、大まかに次の三項に分類できる。各項目を該当する平仮名字体とともに示す。

①序文には、全体での使用率が低い字体を用いる傾向がある。

ア〔阿〕 カ〔加〕 ケ〔介〕 ス〔須〕 セ〔勢〕 タ〔太〕

ツ〔徒〕 テ〔天2〕 ト〔登〕 ナ〔那〕 ニ〔丹〕

ノ〔乃2〕〔能〕 ハ〔盤〕 モ〔毛1〕 ル〔類〕

レ「禮」連 ヲ「越」

②注には、序文と共通する字体の傾向がある。

ツ「徒」テ「天<sub>2</sub>」ニ「丹」モ「毛<sub>1</sub>」

③割書きには、くずしの進んだ字体や簡略な形の字体が用いられる傾向がある。

ツ「川<sub>2</sub>」ネ「年」称<sub>3</sub>」モ「毛<sub>3</sub>」リ「利」レ「札」

①については久保田氏の『無益委記』研究でも似た傾向が指摘されている。『浮世風呂』の序文は漢文調であり、他の文章種別とは異なる性格を持つ。そのような文章の性格により、他の文章種別では用いない平仮名字体が選択され、装飾的に用いられていると考えられる。

②については注が序文の直後、本文が始まる前にあることから、序文の性質をある程度引き継いでいるために、注に序文と共通する字体が使用されていると考えられる。

③について、割書きは一行の幅に二行書き込まれるために、大字の本文よりも小さな字になる。狭い幅に収めやすいこと、小さくても読みやすいことから、簡略な形の字体が用いられる傾向があると考えられる。

## 五 まとめ

『浮世風呂』前編における平仮名字体は、文章種別により使用傾向が異なることが分かった。具体的には、序文と注では全

体において使用例の少ない字体が多く用いられる傾向が見られる。これは先行研究で指摘されているように、漢文調であるという文章の性格から、装飾的に字体を用いているためだと考えられる。

一方の割書きでは、比較的くずしが強く、簡略な形の字体が用いられる傾向がある。これは割書きが一行の幅に二行書き込まれることに関係している。つまり小さく収めやすく読みやすいという機能的な面で、簡略な形の平仮名字体を選択されていたと考えられる。従来の平仮名字体研究では、このような機能的な面による使い分けには注目していないようだが、機能的な面による使い分けに注目すれば、これまで指摘されていない平仮名字体の使い分けが見つかるかもしれない。

本稿では『浮世風呂』全四編のうち前編の調査にとどまった。二編以降にも割書きがあることから、同じ傾向が見られることが予想される。ただ刊行時期の違いなどから、異なる傾向となるかもしれない。また『浮世風呂』における割書きのように、小さく書き込まれる字がある他の版本や写本にも、簡略な形の字体の使用傾向に特徴が見られるのではないだろうか。

【表1】平仮名字体の用例数

仮名 総計	字体 1 用例数 (割合)	字体 2 用例数 (割合)	字体 3 用例数 (割合)	字体 4 用例数 (割合)	仮名 総計	字体 1 用例数 (割合)	字体 2 用例数 (割合)	字体 3 用例数 (割合)	字体 4 用例数 (割合)
ア 336	安 334 (99.40%)	阿 2 (0.60%)	—	—	ノ 844	乃 1 828 (98.10%)	乃 2 12 (1.42%)	能 4 (0.47%)	—
イ 586	以 586 (100.00%)	—	—	—	ハ 745	ハ 1 586 (76.24%)	者 165 (22.15%)	盤 10 (1.34%)	波 2 (0.27%)
ウ 352	宇 352 (100.00%)	—	—	—	ヒ 143	比 141 (98.60%)	飛 2 (1.40%)	—	—
エ 19	衣 19 (100.00%)	—	—	—	フ 252	不 252 (100.00%)	—	—	—
オ 334	於 334 (100.00%)	—	—	—	ヘ 407	部 405 (99.51%)	暹 2 (0.49%)	—	—
カ 1079	可 991 (91.84%)	加 88 (8.16%)	—	—	ホ 88	本 87 (98.86%)	保 1 (1.14%)	—	—
キ 173	幾 140 (80.92%)	起 33 (19.08%)	—	—	マ 406	未 332 (81.77%)	滿 74 (18.23%)	—	—
ク 286	久 286 (100.00%)	—	—	—	ミ 57	三 56 (98.25%)	美 1 (1.75%)	—	—
ケ 174	計 151 (86.78%)	介 23 (13.22%)	—	—	ム 46	武 46 (100.00%)	—	—	—
コ 247	已 244 (98.79%)	古 3 (1.21%)	—	—	メ 127	女 127 (100.00%)	—	—	—
サ 418	左 418 (100.00%)	—	—	—	モ 371	毛 2 261 (70.35%)	毛 3 97 (26.15%)	毛 1 13 (3.50%)	—
シ 573	之 433 (75.57%)	志 140 (24.43%)	—	—	ヤ 355	也 355 (100.00%)	—	—	—
ス 260	春 253 (97.31%)	須 6 (2.31%)	寸 1 (0.38%)	—	ユ 45	由 45 (100.00%)	—	—	—
セ 164	世 162 (98.78%)	勢 2 (1.22%)	—	—	ヨ 166	与 166 (100.00%)	—	—	—
ソ 156	曹 156 (100.00%)	—	—	—	ヨ 491	良 491 (100.00%)	—	—	—
タ 981	多 1 902 (91.95%)	太 77 (7.85%)	多 2 2 (0.20%)	—	リ 380	利 311 (81.84%)	里 69 (18.16%)	—	—
チ 119	知 119 (100.00%)	—	—	—	ル 447	留 442 (98.88%)	類 5 (1.12%)	—	—
ツ 465	川 1 381 (81.94%)	徒 42 (9.03%)	川 2 42 (90.3%)	—	レ 241	礼 208 (86.31%)	連 32 (13.28%)	禮 1 (0.41%)	—
テ 878	天 1 850 (96.81%)	天 2 28 (3.19%)	—	—	ロ 93	呂 93 (100.00%)	—	—	—
ト 560	止 559 (99.82%)	登 1 (0.18%)	—	—	ワ 68	王 43 (63.24%)	和 25 (36.76%)	—	—
ナ 535	奈 532 (99.44%)	那 3 (0.56%)	—	—	チ 23	為 23 (100.00%)	—	—	—
ニ 451	尔 431 (95.57%)	仁 10 (2.22%)	丹 9 (2.00%)	—	ニ 18	惠 18 (100.00%)	—	—	—
ヌ 101	奴 101 (100.00%)	—	—	—	フ 474	遼 434 (91.56%)	越 40 (8.44%)	—	—
ネ 183	柀 2 160 (87.43%)	柀 3 14 (7.65%)	柀 1 7 (3.83%)	年 2 (1.09%)	フ 375	无 375 (100.00%)	—	—	—

【表2】文章種別と平仮名字体

字体 総計 (割合)	本文	割書き	序文	注	字体 総計 (割合)	本文	割書き	序文	注
ア	336	236	71	28	1	イ	981	869	100
安	334 (99.40%)	236 (100.00%)	71 (100.00%)	26 (92.86%)	1 (100.00%)	多	902 (91.95%)	805 (92.64%)	87 (87.00%)
阿	2 (0.60%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)	2 (7.14%)	0 (0.00%)	太	77 (7.85%)	62 (7.13%)	13 (13.00%)
カ	1079	865	195	17	2	多	2 (0.20%)	2 (0.23%)	0 (0.00%)
可	991 (91.84%)	800 (92.49%)	179 (91.79%)	11 (64.71%)	1 (50.00%)	イ	465	375	81
加	88 (8.16%)	65 (75.1%)	16 (8.21%)	6 (35.29%)	1 (50.00%)	川	381 (81.94%)	331 (88.27%)	44 (54.32%)
キ	173	79	82	11	1	徒	42 (9.03%)	32 (8.53%)	8 (9.88%)
機	140 (80.92%)	57 (72.15%)	73 (89.02%)	9 (81.82%)	1 (100.00%)	川	42 (9.03%)	12 (3.20%)	29 (35.80%)
起	33 (19.08%)	22 (27.85%)	9 (10.98%)	2 (18.18%)	0 (0.00%)	テ	878	690	159
ケ	174	126	45	3	0	天	850 (96.81%)	683 (98.99%)	159 (100.00%)
計	151 (86.78%)	106 (84.13%)	43 (95.56%)	2 (66.67%)	0	天	28 (3.19%)	7 (1.01%)	0 (0.00%)
介	23 (13.22%)	20 (15.87%)	2 (4.44%)	1 (33.33%)	0	ト	560	415	106
コ	247	197	47	3	0	止	559 (99.82%)	415 (100.00%)	106 (100.00%)
己	244 (98.79%)	194 (98.48%)	47 (100.00%)	3 (100.00%)	0	整	1 (0.18%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)
古	3 (1.21%)	3 (1.52%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)	0	ナ	535	439	80
シ	573	417	133	19	4	奈	532 (99.44%)	438 (99.77%)	80 (100.00%)
之	433 (75.57%)	306 (73.38%)	110 (82.71%)	14 (73.68%)	3 (75.00%)	那	3 (0.56%)	1 (0.23%)	0 (0.00%)
志	140 (24.43%)	111 (26.62%)	23 (17.29%)	5 (26.32%)	1 (25.00%)	ニ	451	326	96
又	260	203	38	19	0	东	431 (95.57%)	319 (97.85%)	95 (98.96%)
春	253 (97.31%)	203 (100.00%)	37 (97.37%)	13 (68.42%)	0	仁	10 (2.22%)	7 (2.15%)	1 (1.04%)
須	6 (2.31%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)	6 (31.58%)	0	丹	9 (2.00%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)
寸	1 (0.38%)	0 (0.00%)	1 (2.63%)	0 (0.00%)	0	二	1 (0.22%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)
セ	164	130	30	4	0				
世	162 (98.78%)	130 (100.00%)	30 (100.00%)	2 (50.00%)	0				
勢	2 (1.22%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)	2 (50.00%)	0				



字体 計	(割合)	本文	割書き	序文	注	字体 計	(割合)	本文	割書き	序文	注
ネ	183	171	9	3	0	ニ	57	22	31	4	0
ネ 2	160 (87.43%)	157 (91.81%)	1 (11.11%)	2 (66.67%)	0	三	56 (98.25%)	21 (95.45%)	31 (100.00%)	4 (100.00%)	0
ネ 3	14 (7.65%)	10 (5.85%)	4 (44.44%)	0 (0.00%)	0	美	1 (1.75%)	1 (4.55%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)	0
ネ 1	7 (3.83%)	4 (2.34%)	2 (22.22%)	1 (33.33%)	0	毛	371	311	43	16	1
ナ	2 (1.09%)	0 (0.00%)	2 (22.22%)	0 (0.00%)	0	毛 2	261 (70.35%)	238 (76.53%)	15 (34.88%)	8 (50.00%)	0 (0.00%)
ナ 1	841	608	178	52	3	毛 3	97 (26.15%)	70 (22.51%)	27 (62.79%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)
ナ 1	826 (98.22%)	607 (99.84%)	177 (99.44%)	39 (75.00%)	3 (100.00%)	毛 1	13 (3.50%)	3 (0.96%)	1 (2.33%)	8 (50.00%)	1 (100.00%)
ナ 2	11 (1.31%)	1 (0.16%)	0 (0.00%)	10 (19.23%)	0 (0.00%)	リ	380	254	102	21	3
ナ 能	4 (0.48%)	0 (0.00%)	1 (0.56%)	3 (5.77%)	0 (0.00%)	利	311 (81.84%)	194 (76.38%)	97 (95.10%)	17 (80.95%)	3 (100.00%)
ハ	745	584	113	46	2	里	69 (18.16%)	60 (23.62%)	5 (4.90%)	4 (19.05%)	0 (0.00%)
ハ 八	568 (76.24%)	482 (82.53%)	52 (46.02%)	33 (71.74%)	1 (50.00%)	ル	447	327	91	27	2
ハ 者	165 (22.15%)	100 (17.12%)	61 (53.98%)	3 (6.52%)	1 (50.00%)	留	442 (98.88%)	327 (100.00%)	91 (100.00%)	22 (81.48%)	2 (100.00%)
ハ 盤	10 (1.34%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)	10 (21.74%)	0 (0.00%)	類	5 (1.12%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)	5 (18.52%)	0 (0.00%)
ハ 波	2 (0.27%)	2 (0.34%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)	レ	241	207	19	15	0
ヒ	143	64	74	4	1	礼	208 (86.31%)	180 (86.96%)	18 (94.74%)	10 (66.67%)	0
ヒ 比	141 (98.60%)	62 (96.88%)	74 (100.00%)	4 (100.00%)	1 (100.00%)	連	32 (13.28%)	27 (13.04%)	1 (5.26%)	4 (26.67%)	0
ヒ 飛	2 (1.40%)	2 (3.13%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)	禮	1 (0.41%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)	1 (6.67%)	0
ハ	407	346	52	9	0	ワ	68	42	25	1	0
ハ 部	405 (99.51%)	344 (99.42%)	52 (100.00%)	9 (100.00%)	0	王	43 (63.24%)	23 (54.76%)	20 (80.00%)	0 (0.00%)	0
ハ 遍	2 (0.49%)	2 (0.58%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)	0	和	25 (36.76%)	19 (45.24%)	5 (20.00%)	1 (100.00%)	0
ホ	88	61	23	4	0	ヲ	474	295	150	28	1
ホ 本	87 (98.86%)	60 (98.36%)	23 (100.00%)	4 (100.00%)	0	邁	434 (91.56%)	273 (92.54%)	143 (95.33%)	17 (60.71%)	1 (100.00%)
ホ 保	1 (1.14%)	1 (1.64%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)	0	越	40 (8.44%)	22 (7.46%)	7 (4.67%)	11 (39.29%)	0 (0.00%)
マ	406	339	59	7	1						
マ 末	332 (81.77%)	278 (82.01%)	47 (79.66%)	6 (85.71%)	1 (100.00%)						
マ 満	74 (18.23%)	61 (17.99%)	12 (20.34%)	1 (14.29%)	0 (0.00%)						

【使用テキスト】

式亭三馬『誦話浮世風呂』前編（文化六年刊、国文学研究資料館蔵）

<https://kosensei.nijl.ac.jp/biblio/200015779/>

式亭三馬編『誦話浮世風呂』（野村貴次氏蔵本複製）（新典社、一九七八年）

神保五彌校注『浮世風呂 戯場粋言幕の外 大千世界案屋探』（新日本古典文学大系 八六、岩波書店、一九八九年）

注

- (一) 安田章『仮名資料序』（『論究日本文学』二九、一九六七年）、迫野虔徳『定家の「仮名もし遣」（『語文研究』三七、一九七四年）、矢野準『大田南畝の文字生活―『向岡聞話』のかなの用字を中心に―』（『近代語研究』六、武蔵野書院、一九八〇年）、木越治『近世文学作品における字母の用法について―「ますらを物語」・「おくのほそ道」・「教訓私儘育」の場合―』（『国語文字史の研究』一、和泉書院、一九九二年）、濱森太郎『仮名文字の「揺らぎ」について（上）―仕組みと推移―』（『人文論叢 三重大学人文学部文化学科研究紀要』二七、二〇一〇年）など。
- (二) 浜田啓介『板行の仮名字体―その収斂的傾向について―』（『国語学』一一八、一九七九年）、矢田勉『十一世紀中頃における平仮名字体―実用的資料と美的資料との連関について―』（『語文』一〇〇・一〇一、二〇一三年）など。
- (三) 久保田篤『恋川春町『無益委記』の表記―平仮名の字体について―』（『人文学科論集』二九、一九九六年）
- (四) 久保田篤『江戸時代後期の平仮名・片仮名について』（『日本語の文字・表記―研究会報告論集―』二〇〇二年）
- (五) 久保田篤『『浮世風呂』の平仮名の用字法』（『成蹊国文』三〇、一九九七年）

(六) 注三参照

「かわばた しおり 本学卒業生」